☆決勝

創志4年ぶり頂点

春の岡山県高校野球大会（山陽新聞社後援）最終日は2日、倉敷市のマスカットスタジアムで決勝があり、創志学園が14―2で倉敷商を下し、4年ぶり2度目の優勝を飾った。創志学園はエースの右腕川端が7安打2失点と粘り強く投げ、4併殺のバックがもり立てた。打線は一回、坪井の適時打などで2点を先制し、その後も攻め手を緩めなかった。

創志学園は県代表として中国大会（6月5、6、8日・鳥取県）に出場する。

▽決勝

創志学園	2	0	3	2	3	1	0	1	2	14
倉敷商	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2

▽三塁打 西川、藤森▽二塁打 木村駿、坪井、川端、藤本、金田▽ボーク 柏内

【評】投打のかみ合った創志学園が大勝した。

打線は13安打で14得点。一回1死一、二塁から敵失と坪井の左前打で先制すると、三回には1死二、三塁から木村駿の右中間2点二塁打、池田の左前打でリードを広げた。その後も犠打を絡めるなどして手堅く得点を重ねた。右腕川端はリズム良く投げ、7安打2失点で完投。

倉敷商は4投手で計11四死球を与え、4失策が全て失点につながった。打っては七回無死一塁から西川、藤森の連続長短打で2点返すにとどまった。

創志学園		打	安	点
⑥	藤本	4	2	0
⑨	池田	4	2	1
⑦	山岡	3	0	0
③	岡崎	4	1	1
3	砂川	0	0	0
④	坪井	6	2	2
②	栗山	2	1	1
⑤	名和	2	0	0
5	金田	2	1	1
①	川端	5	2	3
⑧	木村駿	6	2	2
	計	38	13	11

倉敷商		打	安	点
⑧	雄龍	4	1	0
⑥4	池上	3	0	0
⑨	西川	4	1	1
③	藤森	4	2	1
⑤	山下	4	1	0
⑦2	岸本	3	0	0
①	柏内	1	0	0
1	引地	0	0	0
H	大山	1	0	0
1	三宅貫	0	0	0
H7	弓取	1	0	0
②	小田	2	0	0
H	文箭	1	1	0
1	筒井	0	0	0
④	加藤	2	1	0
H6	三宅世	1	0	0
	計	31	7	2

	振	球	犠	盗	失	残	併
創	3	11	5	4	1	13	4
倉	3	1	0	0	4	3	0

2失点完投した創志学園のエース川端師童＝倉敷マスカット（今中雄樹撮影）

エース抜群の安定感

打線も応え14点

テンポ良く投げ抜いてきた100球目だ。左足に当たった痛烈なピッチャー返しを拾って一塁にトスし、ゲームセット。初戦から全4試合のマウンドを守り抜いた創志学園の右腕川端は「一人で投げ切りたかった。良い出来だった」と安堵（あんど）した。

「少し疲れがあった」と振り返るものの、準々決勝から3日連続のハードな起用に応えてみせた。力強いスイングを見せる倉敷商打線に対し130㌔台中盤の直球と切れのある変化球を制球良く投げ込み、7安打2失点で完投。四球はわずか1と安定感十分だった。

二塁坪井が「（川端の）頑張りを見てきた。助けたかった」と言うように、野手陣もエースをもり立てる。2失点した直後の七回1死一塁、八回1死一、二塁などの場面で計4回の併殺を完成させた。

エースがチームの敗北を決定づける3ランを浴びたのは県王者として臨んだ昨秋の中国大会1回戦。悔しさを胸に冬場は毎日約15㌔の山道のランニングを自らに課して下半身を鍛え抜き、「秋より楽に球を低めに集められるようになった」。今大会計32イニングで四球は2と持ち前の制球力が一層向上し、長沢監督は「抜群に信頼している」と称賛する。

県大会の〝秋春連覇〟は、その夏の甲子園に出場した2006年の関西以来15年ぶり。創志学園にとっては初めてだ。勢いそのままに臨む中国大会。「ナンバーワンになり、全国で勝てる力をつけたい」と主将岡崎は気合十分だ。たくましさを増した背番号1を軸に、チームの成長曲線は上昇カーブを描く。（田井香菜子）

1回表1死満塁のピンチでマウンドに集まる倉敷商ナイン

倉敷商 堅守ほころぶ

伝統の堅守がほころんだ。4失策11与四死球の倉敷商・梶山監督は「完敗。ゼロからやり直しです」とさばさばした表情で語った。

一回1死一、二塁で打ち取った当たりを内野手がはじき、みすみす先制点を献上。四、五、八回にも悪送球などの失策が失点に結びつき、傷口を広げた。今大会初登板の先発柏内と2番手引地の両2年生は五回まで計9与四死球、10失点。「これだけ守りが乱れれば、どこが相手でも勝てない」。4番藤森は自滅を悔やんだ。

今春の練習試合でミスが続いた反省から守備を鍛え直して臨んだ今大会。岡山東商との準々決勝を無失策で乗り切るなど守りからリズムをつくり、打線も2戦連続2桁安打と好調だっただけに受け入れがたい結末だ。

「この敗戦は忘れない」と主将の山下。刻まれた屈辱を、昨夏に続く県王座奪取のパワーに変える構えだ。（長瀬庸一）

☆準決勝

倉敷商

不戦勝

春の岡山県高校野球大会（山陽新聞社後援）第4日は1日、倉敷市のマスカットスタジアムで準決勝があり、創志学園と倉敷商が決勝に進んだ。

創志学園は六、七回に大量8点を奪い、総社南を10―0の七回コールドで下した。倉敷商は倉敷工の出場辞退により不戦勝。県高野連によると、倉敷工の生徒に新型コロナウイルス感染者が確認されたためという。

2日の決勝はマスカットスタジアムで午前10時開始予定。創志学園は4年ぶり2度目、倉敷商は3年ぶり9度目の頂点を目指す。春の県大会で両校が激突するのは初めて。

☆準々決勝

倉敷商 好守でリズム

連続２桁安打 打線に厚み

守備の動きに一切の無駄がない。倉敷商の先発マウンドに立った三宅貫はバックを信頼し、打たせて取る。1点を追う二回はわずか8球で内野ゴロと2本の内野フライに仕留め、三回は3人に対し、たったの7球で全て内野ゴロ。ギアを上げた右腕は四回、3人を立て続けに三振で片付けた。

「二～四回を三者凡退で切り抜け、攻撃にリズムが生まれた」。主将の山下の言葉通り、ディフェンスのテンポの良さが攻撃に好影響を与える。三回だ。池上、西川、藤森、山下と2～5番が4連続長短打で2点を奪い、あっという間にひっくり返してみせた。

3－2の五回は1死一塁から藤森が主砲の力を発揮する。初球の真っすぐを豪快に引っ張り、右中間を破る三塁打。「4番の役割はチームを引っ張ること」。一回にも相手に傾きかけた流れを食い止める適時打と頼りになる2年生は、4安打3打点の2回戦に続く3安打2打点の活躍。打席で風格すら漂わせる。

昨秋は創志学園に打ち負けて県8強止まり。当時6番だった藤森が4番に座るなど打線はひと冬越えて厚みを増し、これで2試合連続の2桁安打とバットが振れている。

「勝ち切れたことが大きい」と梶山監督は控えめだが、伝統の堅守の上に攻撃力が備わってきた。（近藤哲也）

【倉敷商―岡山東商】1回裏倉敷商1死一、三塁、藤森が右前打を放ち、1－2とする。捕手下口＝倉敷市営

▽準々決勝

岡山東商	2	0	0	0	0	2	0	0	0																
倉敷商	1	0	2	0	2	0	0	0	×																5

▽本塁打　山本陽斗

▽三塁打　藤森▽二塁打　山下、永野

【評】中盤までに5得点の倉敷商が反撃をしのぎ切った。1－2の三回1死から3連打で満塁とし、山下の2点二塁打で逆転。五回は藤森の適時三塁打と山下の犠飛で大きな2点を加えた。三宅貫が4回、永野が5回を投げて共に2失点。バックが無失策で支えた。

岡山東商は六回、山本陽斗の2ランで1点差に迫り、九回は2死一、二塁と攻めたが及ばなかった。（近藤哲也）

岡山東商		打	安	点
⑧	小島	4	2	0
⑦	馬場	4	1	0
⑧	山本陽斗	3	2	2
③	相野	3	0	0
②	下口	4	0	0
①	福島	4	1	2
④	福井	3	0	0
R	児子	0	0	0
⑤	光森	3	1	0
⑨	横山	2	0	0
H	青山	1	0	0
	計	31	7	4

倉敷商		打	安	点
⑧	雄龍	4	1	0
⑪	池上	3	1	0
⑨	西川	4	3	0
③	藤森	4	3	2
⑥	山下	3	1	3
⑦	小郷	2	0	0
H	弓取	1	0	0
H7	柏内	1	0	0
7	今田	0	0	0
④	文箭	3	0	0
4	加藤	1	0	0
①	三宅貫	1	0	0
H1	大山	1	0	0
②	永野	2	1	0
	小田	3	0	0
	計	33	10	5

岡 8 4 1 0 2 5 0
振球犠盗失残併
倉 5 0 3 0 0 7 1

☆２回戦

倉敷商主導権 追撃を許さず

倉敷商 1 0 2 0 0 0 2 0 0 5
就実 0 0 1 0 1 0 1 0 0 3

（倉）三宅貫、永野―小田（就）木島―北山

▽三塁打　藤森（倉）▽二塁打　藤森（倉）北山、秋田、木島（就）▽暴投　木島（就）

【評】倉敷商は一回1死二、三塁から藤森の左前打で先制すると、三回にも藤森の右中間2点適時三塁打で主導権を握った。3－2の七回は小田、池上の連続適時打で粘る就実を振り切り、三宅貫―永野の継投も決まった。12残塁と攻めあぐねたのは改善点。

就実は連投の主戦木島が13安打を浴びながら粘りの投球を見せたが及ばなかった。（長瀬庸一）